

内容分野	御意見
目指す姿	読書率を上げようとするものなのか。
コンセプト1	学校図書館を充実させないといけないと感じている。県として、学校図書館についてのガイドライン(数値基準を入れたもの)をつくれないうか。
	子どもが本に接することができる機会をどれだけ提供できるかが大事。学校図書館の充実について、しっかりと市町に呼び掛ける。環境を整えていく。
	家で電子図書を読んでいる児童もいる。電子を広げていくのも大事なことだと思っている。
	子どもたちが本に触れる、親しむことが大切。場の設定があること、本が大事だと思ってくれることが第1歩。
	コンセプトの「どこでも」に「いつでも」を加えてはどうか。子どもたちが「いつでも」本に触れられる場所があればよい。
	病院にいる子どもや、養護学校の子どもなど、図書館に行けない子どもがいる。そういった子どもにも届けていけるような取組を。
	障がいのある子、自分から本に関わっていくことが難しい子がいる。本に触れる機会が大切。電子図書なら、めくるのが難しい子も読んでいける。読み聞かせ、点字。いろいろな方法で本に関わっていくことが大切。
	いつでもどこでも読書ができる図書館づくりが大切。子どもが本に触れる機会をいかにつくっていくかということが大切。
コンセプト2	学校司書の配置について、どの程度予算措置されているのかを調査してはどうか。
	学校司書の配置を進めるべき。
	学校は、ボランティアに丸投げしている。お話ボランティア派遣事業が広がるとよいのでは。
	学校司書が学校図書館にいて、本と子どもの仲立ちができる。本とのつながりが広げられるきっかけとなる。
	図書館を中心に活動されているボランティア、学校を中心に活動されているボランティア、子育て支援を中心に活動されているボランティアが研修の機会を通じて出会えるとよい。支える人を支える機会をたくさん作ってもらえると嬉しい。
	学校司書の力は大きい。子どもたちへの本の紹介や配置等、工夫してくださっている。並行読書など。学校図書館をよい場所にしてくださっている。専門性を生かしてもらうためには、連携が大切。
	支える人を支える。そういう人を増やす。そういう人が市町に一人いてくれると、相談もしやすい。県に司令塔があって、相談したり、他の市町の取組を紹介してもらったり。

コンセプト3	<p>幼児の読書、家庭での読書もものすごく大事。学校だけを見てはいけないと思う。図書館は静かにするところではなく、幼児がワイワイ楽しむ中に本がある、そんな環境があるのは大事。親子関係にもつながる。</p>
	<p>読み聞かせをとおした親子の会話から幸せな気持ちや自分が大事にされていることを感じる。こういう経験を積み重ねていくのが、子どもに大事なこと。</p>
	<p>保育園等には学校司書はおられない。</p>
コンセプト4	<p>取組について、全てが生涯学習課のものなので、もっと他の課や部署に広げていくとよい。</p>
	<p>たくさんの課のみなさんが来てくださっている。これは生涯学習課のこと、となってしまうとこの事業は立ち止まってしまう。</p>
その他	<p>YouTubeやSNS等で配信して、本の良さを宣伝したらどうか。</p>
	<p>居場所としての学校図書館が注目されていくのでは。子どもたちがそこにいくと、そこに人がいる。心がぼかぼかし、ニコニコになる。楽しくて仕方ない。人が、子どもの気持ちをぼかぼかにしたり、本をつないだり、親子をつないだり…理想論かもしれないが、そういったことをベースにして考えていただけたらいい。</p>
	<p>市町や県のイベントは広報が大事。子育て世代、中・高生への広報をどのように展開するとよいだろう。</p>